

# 多治見市における夏季の気温分布の実態調査(その2)

阿部紫織(筑波大・院), 日下博幸(筑波大・計算科学研究センター), 高根雄也, 岡田牧, 田中翔太(筑波大・院)  
小木曾未佳, 宮本賢二, 加藤千明(多治見市役所)

## 1. はじめに

2007年8月16日に、岐阜県多治見市内のアメダス観測地点において、埼玉県熊谷市と並んで国内最高気温の40.9℃が観測された。多治見市は盆地内部に位置しているため、高温になるとの意見がある。また、多治見市内の市街地においては緑地が少なく、住宅など建物が込み入っており、風が通り抜け難いという環境により、ヒートアイランドの影響も疑われている。一方で、海風による名古屋からの暖気移流が侵入するとも言われている。また、多治見市で日本一の気温が観測されるのにはアメダスの観測地点の周囲の環境が影響しているとも言われている。このように高温現象の主要因は特定されておらずいまだ不明である。

## 2. 目的

本研究では岐阜県多治見市および可児市、愛知県春日井市、犬山市において気温観測を行うことによって、多治見市内の熱環境の実態調査を行う。また、多治見アメダスと周辺街区において移動観測を行うことによって、アメダス周辺の気温の特異性の調査を行う。

## 3. 観測概要

岐阜県多治見市内の都市区内公園(3カ所)および小中学校(11カ所)と多治見アメダス、愛知県春日井市の都市区内公園(1カ所)および高校(1カ所)、さらに愛知県犬山市の都市区内公園(2カ所)、岐阜県可児市の都市区内公園(1カ所)にて、おんどり Jr.を用いた定点観測を2011年7月1日～8月31日の2ヶ月間、10分間隔で実施した。

また、アメダス地点の特異性を確認するため、多治見アメダスとその周辺街区2カ所において1時間に1回、移動観測を行った。

## 4. 結果

多治見市内の高温現象の原因を探るため、多治見市内の気温分布の解析を行った。その結果、多治見市内の都市部とアメダス観測地点において他の観測地点よりも気温が高くなっていることが確認された。また、アメダス観測地点とその近くの公園の気温を比較すると、アメダス観測地点の気温が平均的に高くなっていることが確認された。このことから多治見市都市部におけるヒートアイランド現象の影響とアメダス観測地点の特異性の影響がみられた。

しかし、移動観測の結果から、必ずしもアメダス地点付近で観測した気温が街区で観測地点の気温よりも高くなっていたわけではないことから、アメダス観測地点だけでなく、その周辺都市も高温になることが分かった。

## 謝辞

本研究は、文部科学省の委託事業「気候変動適応研究推進プログラム」において実施したものである。本研究は、筑波大学計算科学研究センターと多治見市の連携協定の下、実施された。



図1 8月13日14時の移動観測の結果